

令和2年度 学校評価計画書（中間評価）

石川県立金沢中央高等学校夜間制

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 実現状況の達成度判定基準 | 評価 | データ | 分析と課題 | 備考 |
|--|---|----------------|---|----|------------------------------|---|------------------------|
| 1 生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものにするとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン化等を推進することで学力向上を図る。 | 時間、あいさつ、携帯電話の使用等、良好な学習環境の向上を目指すことで、魅力ある授業を行い授業の欠席の減少につなげる。 | 教務課 生徒指導課 | 授業がよく理解できると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。 | B | 7月 93% 昨年 92% | 多くの生徒が理解できていると答えている。今後は、さらに学習意欲を向上させるために、学習の見通しや成果を明らかにしながら授業を行っていききたい。 授業に取り組む姿勢や授業規律を繰り返し指導することで、落ち着いた学習環境を維持し、学ぶ意欲をもち、真面目に取り組もうとする生徒を増やしていく。 | 7月、12月に調査する。 |
| | 基礎的・基本的な学習内容を意欲的に学ぼうとする意欲を向上させるため、アクティブラーニングの場を増やす。 | 教務課 | ICTが効果的に利用されていると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。 | C | 7月 82% 昨年 87% | コロナ禍で対話型の授業の実施が難しくなっているが、この状況下で、どのようなアクティブラーニングができるか研究していく。ICT機器を利用した授業はすべての教員が実施しているが、今後は効果的な使用方法への改善を目標に、校内研修を行っていく。 | 7月、12月に調査する。 |
| 2 卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み生徒の希望進路を実現する。 | 各教科の授業を始めとして、行事、LH、総合的な学習（探究）の時間で有効なキャリア教育を実践し、卒業生全員の進路実現を図る。 | 進路課 学年 | 卒業生徒の進路内定率が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 85%以上90%未満である。 D. 85%未満である。 | | 昨年 80% | | 年度末に調査する。 |
| | 望ましい職業観と社会性の育成を図るため機会をとらえてキャリア教育・労働教育を進める。学校生活に適應出来ている未就業の生徒には就労体験を積極的に奨励する。また生徒の就労先を訪問し、生徒に声かけをする。 | 進路課 学年 | 就業している生徒の合計が全生徒中の A. 80%以上である。 B. 70%以上80%未満である。 C. 65%以上70%未満である。 D. 60%未満である。 | | 昨年 72% | | 年度末に調査する。 |
| 3 規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。 | 生徒の思いや保護者の思いを把握し、関係機関と連携して適切な支援を行う。また、学校からの情報発信として、さらなるウェブサイトの充実を図る。 | 総務課 | 年間更新回数が A. 40回以上である。 B. 25回以上40回未満である。 C. 15回以上25回未満である。 D. 15回未満である。 | | 昨年 22回 | | 年度末に集計する。 |
| | オリエンテーション、LH、全校集会などとおして生徒の規範意識の定着に努める。 | 生徒指導課 | 無断早退の件数が A. 0件である。 B. 1件以上5件未満である。 C. 5件以上10件未満である。 D. 10件以上である。 | B | 8月 2件2名 昨年 0件0名 | 早退時には、必ず届け出るよう声かけ、指導を行っている。無断早退は、現在2件。登校時に理由を確認。 教員に一言伝えることが、安心・安全上大切であることを理解するよう指導を行っており、指導を継続していきたい。 | 夏季休業前に中間集計を行い前年度と比較する。 |
| | いじめは、どのクラスでも、どの生徒でも起こりうるという基本認識に立ち、全職員が一体となっていじめを未然に防ぐよう意思疎通を図る。 | 生徒指導課 | いじめの件数が A. 0件である。 B. 1件である。 C. 2件である。 D. 3件である。 | A | 7月 0件 昨年 0件 | 個性豊かで生育環境が異なる生徒が入学する。そのため、入学時や集会時に、他の個性を尊重し認め合う心を育むよう指導している。多くの生徒は、他を思いやる優しい心を持っており、互いに協力し合い良い雰囲気を保っている。日頃から生徒理解のためのアンテナを高くするとともに個人面談の機会を増やし、生徒の些細な変化にも気づける取り組みを継続していく。 | 年2回アンケート調査を実施する。 |
| | 心身の健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣ができるよう進める。 | 保健課 給食課 | 普段の睡眠時間が7時間以上の生徒が、 A. 70%以上である。 B. 50%以上70%未満である。 C. 30%以上50%未満である。 D. 30%未満である。 | C | 7月 37% 昨年 46% | 睡眠時間が6時間以上の生徒は85%であった。就寝時刻をあと1時間早めることを目標に全体に対して啓発を行っていく。また睡眠時間が6時間未満の数名の生徒を中心にアルバイトなど生活状況を考慮した生徒個別のアドバイスを実施し、睡眠の大切さを浸透させていく。 | 7月、12月に調査する。 |
| 4 スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等とおして自主・自立・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。 | 学校行事への積極的な参加を促し、生徒会活動への自覚を高める。 | 生徒指導課 (生徒会) | 生徒の学校行事への参加率が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。 | | 昨年 82% | | 年度末に調査する。 |
| | 部活動への積極的な参加を促し、活力ある生徒の育成に努める。 | 生徒指導課 (生徒会) | 部活動の実施日のうち、部員が活動した日数が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。 | | 昨年 85% | | 年度末に調査する。 |
| 業務改善とワークライフバランスの推進 | ICT等を使って提示する教材の共有をさらに進める等の授業改善や業務の精選を推進する。 定時退庁日の提示等により、勤務時間を意識した働き方改革を浸透させる。 | 教頭 | 学校全体として業務の効率化が進んでいると感じている教職員の割合が、 A. 100%である。 B. 80%以上100%未満である。 C. 60%以上80%未満である。 D. 60%未満である。 | A | 7月 100% 昨年 100% | 教員アンケートでは「そう思う」「ややそう思う」がそれぞれ50%であり、効率化は順調に進んでいる。過度の効率主義にならないよう、本質や背景を見落とさないよう意識し、昼間制・各課・学年との連絡・連携をさらに密にしながら、さらなる業務改善に努めたい。 | 7月、1月に調査する。 |

